

「栗山町における除排雪事業の改善に関する提言」

1. はじめに

近年、本町においては気象変化による降雪の集中化、除排雪事業者の担い手不足、人口減少や高齢化の進行に伴い、除排雪事業に関する課題が顕在化している。特に、除排雪業務の効率化、生活道路や歩行空間の安全確保維持、官民による共助体制の確立が喫緊の課題となっている。

本提言書は、現状の課題を整理したうえで、持続可能かつ実効性のある除排雪事業の構築に向けた具体的な改善策を提案するものである。

2. 現状と課題

(1) 除排雪事業の現状

本町に限らず除排雪事業（物流・建設業界）に関わる労働力不足は、高齢化の進展のみならず、トラックドライバー等の時間外労働規制（2024年問題）、冬期間のみの不安定雇用から他業者に人材が流出するといった業界全体の課題がある。主に委託業者により除排雪作業が実施されている本町でも、担い手不足に加え、降雪の集中や人員・機材の制約から、5年後、10年後を見据えた時に、現水準の対応を維持できるかが懸念される。

(2) 主な課題

- 除排雪作業員の担い手不足
- 除排雪作業員の負担増
- 苦情や問い合わせの受け入れ態勢の整備
- 出入り口前の雪処理（置き雪）対策

3. 提言内容

提言① 業務・支援体制の見直しと担い手の確保

除雪車両の更新、定期的な除雪路線や単価の見直し、除雪路線の整備（シーズン前の補修等）を計画的に実施することで、より働きやすい職場環境を構築し、除排雪作業員が本町で長く従事したいと思える体制づくりを求める。また、町内の事業者の人材育成と生産の向上を図るための、補助金等を活用した人材確保の拡充を図ることが望ましい。さらに、労働力不足を補う施策として、除雪車両の運転免許を保有した町職員や会計年度職員の人員拡充検討を求める。

提言② ICT活用による作業効率化

作業状況の把握や指示伝達が属人的・経験依存となりやすく、対応の遅れや重複作業を招く要因となっているため、除排雪作業の「省力化」と「可視化」を図ることが不可欠である。

例) GPS 除雪管理システム：指示の的確化、重複作業の防止、作業負担の軽減

除雪要望受付フォーム：現場の実情を迅速に把握し、優先順位付けに反映が可能

積雪監視用カメラ：巡視回数の削減により、人的負担の軽減と業務効率の向上

除雪車の作業装置操作の自動化：全国的に未だ実証段階だが情報収集が必要

提言③ 積極的な情報発信（交換）

あらゆる方法でコミュニケーション機会を増やし、官民双方による情報交換の活発化が重要である。地域住民と「自助」「共助」「公助」の在り方を共有することに加え、町民参加型による連携・協働の除排雪体制の仕組み構築に向けて検討を求める。

提言④ 町民ニーズの把握

様々な除排雪施策を検討する上で、行政側の判断だけでなく、町民が日常生活の中で直面している課題や要望を的確に把握することが重要である。寄せられた意見を分野別・地域別に整理・分析し、除排雪の優先順位や運用改善に反映してほしい。具体的には、助成金、資機材の貸与、ボランティア等の施策が考えられる。

4. 期待される効果

- ①安定的な除排雪体制の維持
- ②除排雪作業の省力化・可視化
- ③安全確保の向上、町民理解の促進
- ④町民満足度および行政信頼度の向上

5. おわりに

本提言に示した施策は、直ちに全てを実施するものではなく、試行的導入を含め段階的に検討することが可能である。

本町における持続可能な除排雪事業構築に向け、前向きな検討をお願いしたい。

【提言者】

団体名：栗山町除排雪事業在り方検討会議

氏名：会長 岡山 典弘

提出日：令和8年3月23日
